



文責 岩根小学校長 佐藤勇人

## 「どうしたらできるのか」—— 目的に向かっていく努力

日本人の発明家は多くいますが、「日本の十大発明家」(特許庁選出一九八五年選出)によりますと、

- 1 豊田佐吉 (織物の機械)
- 2 御木本幸吉 (養殖真珠)
- 3 高峰譲吉 (タカチアスターゼ、オドレナリン)
- 4 池田菊苗 (グルタミン酸ナトリウム)
- 5 鈴木梅太郎 (ビタミンB1、ビタミンA)
- 6 杉本京太 (邦文タイプライター)
- 7 本多光太郎 (KS鋼、新KS鋼)
- 8 八木秀次 (八木・宇田アンテナ)
- 9 丹羽保次郎 (NE式写真電送機)
- 10 三島徳七 (MK鋼)

の10名の方が挙げられています。みなさんの名前と業績がおわかりでしょうか？

このように、日本の発明家として、たくさんの方がいますが、最近ですと、青色発光ダイオードの発明で有名になった中村修二氏が、自著の中で自身の経験を語っています。

その中に、人生で一番大切なキーワードとして「できない理由を探すな。どうしたらできるかを考える。」をあげています。

中村氏は、自分の専門外の仕事から独学に近い状態で研究し、部品の調達から研究機材の作製まで行い、最終的には、赤色・青色ダイオードの発明をしたのです。

会社員時代にまだ発明されていなかった特殊な青色発光ダイオードの開発をしたいと社長にお願いし、会社から約3億円の開発費用をいただいたそうです。その後、研究に使う機械をつくる勉強をするため、フロリダ大学に1年間留学し、日本に戻ってから、研究の装置の改造に取りかかりますが、研究の取りやめを求められます。その後、窒化ガリウムの結晶を製作する新しい機械を発明し、青色発光ダイオードの発明につながっていくのです。



私たちは、いろいろな壁にぶつかると、壁を乗り越えようと努力し、それでもうまくいかないときには、「○○がないからできない」とできない理由を探してしまふことがあります。

しかし、中村さんは、「○○がないからできない」ではなく、「自分のやりたいことは○○だ。そのためには、○○が必要だ」という前向きな姿勢で、自分で決めた目的に向かっていきました。その努力の結果が、新しい発明につながっていったのだと思います。

以前(4月頃)、土曜日の夕方、犬の散歩をしている時に、小学生が2人、道路を走っていました。どうしたのか尋ねてみると、「運動会のリレーの選手を選ぶことになったから、少しずつトレーニングしています!」という返答で、私はとても感心したことがあります。

「目的に向かっていく努力」を自分の生活の中に位置づけていくことが、これからの一人一人の「目的に向かう道」につながっています。子どもたちの夢を育み、それを支えていくことを私たちの使命と考え、子どもたちの毎日を見つめていきたいと思えます。子どもたちのいろいろな取り組みや日頃の頑張りをぜひ応援してください。



## 市 鼓笛パレードを実施しました

9月27日(火)、みずいる公園から市中央公民館間をコースとして市小学校鼓笛パレードが行われま

した。今年度から本校の鼓笛隊は6年生だけで編成することになりましたが、子どもたちの演奏は、私たちの演奏は、いかげなうか。各校の先頭を切って、堂々と演奏・行進する姿は、岩根小の伝統を感じさせるものであり、6年間の思いがこもった素晴らしいものだったと誇らしく思いました。お忙しい中、パレードのお手伝いをしてくださったPTA役員の皆様、深く御礼申し上げます。また、応援に駆けつけてくださった保護者の皆様、ありがとうございました。

